

# 教育

一般社団法人 現代教育研究協会

会報

## 58

題字 樹本頼兼氏

(平成8年～平成20年 京都市長)

発行所

一般社団法人 現代教育研究協会

〒605-0981

京都市東山区本町4丁目131番地

クリスタルハイツ1F

印刷所 (有) 享美プリント

### 二〇二二年度を振り返って (接拶と現代教育研究協会の活動)

会長 在田正秀



平素は現代教育研究協会の諸活動にご理解ご協力を頂き誠に有難うございます。

私は、昨年六月から梶村健二前会長の後を受け、歴史と伝統ある現代教育研究協会の会長を務めさせて頂いております。創設者森藤吉先生の崇高な理念と実践の継承発展が会長の務めであり、会員の減少やこの三年以上にわたりコロナの感染拡大が繰り返す状況やネットの活用など新たな活動形態の工夫をはじめ多くの課題はありますが、京都市教育委員会等で長年仕事をし、本会に関りを持ってまいりました経緯から、少しでもお役に立てればとお引き受けした次第です。

さて、昨年度の本会の活動も引き続きコロナの感染拡大が繰り返し講演会や研修会の実施が心配される状況でしたが、五月に第一回講演会を実施することが出来ました。祇園祭山鉾連合会の木村幾次郎理事長を講師にお迎えし、「疫病と祇園祭」と題して、三年振りに山鉾巡行が実施される祇園祭の由来や現在とは異なる以前の巡行経路、一九六二年振りに巡行参加する高山など興味深いお話をお聞きしました。

第二回目の講演会は、ウイズコロナ時代の到来を見据えたオンライン講演会を想定し、まずは学校における「教育のICT化」の現状を学ぼうと八月に計画しましたが、コロナの感染状況からやむく延期させていただきました。その後感染状況が比較的落ち着いてきたことから、十二月に「天才アート」展鑑賞会と昼食会を実施しました。「天才アート」とは、今、世界的に注目が集まっている障碍のある人や引きこもりの人などの多くの方がもっている優れた感性と表現力、そこから湧き出る独自のなアート作品に対して、NPO

法人障碍者芸術推進機構(天才アトキョウト)がネイミングされたものです。鑑賞会当日、人権教育で長い歴史と伝統のある楽只小学校内のアトリエとギャラリーで、重光豊副理事長からご説明を受け、作品の素晴らしさに感銘を受けました。今年一月には延期していた第二回講演会を実施し、講師にお迎えした京都市総合教育センターの前田穰主任指導主事から、京都市の学校でのICTを活用した教育活動や個別最適な学びと協働的な学び等について説明をお聞きし、教師指導から子ども主体の授業への転換に向け、その現状と課題について理解を深める貴重な機会となりました。講演会に引き続き、三年振りとなる新年の懇親会も開催することが出来ました。

コロナ禍により、本会の活動は三年間にわたり講演会や研修会が中止や延期を余儀なくされましたが、第八波が収束傾向にあり、新年度は会員の皆様のご理解とご協力を頂き、開催方法を工夫しながら例年に近い活動が出来るよう努めてまいりたいと考えております。

#### ①昨年度を振り返って

昨年度を振り返りますと、残念ながらコロナの感染拡大が繰り返す一年でありました。昨年春から感染力は強いものの重症化率が低いオミクロン株で感染力のより強いBA.2が主流となり、感染拡大第七波は九月に、第八波は年末年始にピークを迎え、一日の全国の感染者が二十五万人を数えるまでになりましたが、昨年九月二十六日から全数届出の見直しが行われるなど、徐々にウイズコロナ時代に舵を切る一年でもありました。

#### ②サッカーワールドカップ

こうしたコロナの感染拡大が繰り返す中、大いに盛り上がったのがサッカーワールドカップでの日本代表チームの活躍です。

昨年度を振り返りますと、残念ながらコロナの感染拡大が繰り返す一年でありました。昨年春から感染力は強いものの重症化率が低いオミクロン株で感染力のより強いBA.2が主流となり、感染拡大第七波は九月に、第八波は年末年始にピークを迎え、一日の全国の感染者が二十五万人を数えるまでになりましたが、昨年九月二十六日から全数届出の見直しが行われるなど、徐々にウイズコロナ時代に舵を切る一年でもありました。

#### ③新年度を展望して

本会創設者の森藤吉先生が初代校長を務められた塔南高校は今年創設六十周年を迎えますが、四月に元洛陽工業高校の跡地に移転・再編され、校名も「開建高校」と改め、新たな高校として生まれ変わります。

黙々とノートを取る授業風景とは全く違い、自分で問いを立て、問いを深めることで学びの本質に迫る。その際、自分で学び方を選択し、様々な対話・協働を通じて新しい発想を創造する。

こうした新しい開建高校を本会の研修会で視察の機会が持てたらと思っております。

### ②文化庁の京都への全面的移転

本年三月二十七日に念願の文化庁の京都への移転が実現し新体制の下で事務が始められました。新体制は、人事・広報や政策、文化財、世界遺産などを担う五課が移ることに加え、京都に常駐する長官の下に、「食

文化推進本部」と「文化観光推進本部」を置き、京都ゆかりの深い食文化と文化観光を重点政策に位置づけ機能強化が図られています。ただ、東京に他省庁との連携、国会対応や国際交流、著作権等を担う四課が残

り、京都に移る職員数は全体の七割ということになります。

地方創生の一環で、東京の一極集中を是正し、地方から日本を元気にするということ。明治維新以来、初めてある伝統産業や幅広いものづくり、映像・マンガ・アニメなどのコンテンツ、食、観光などを活かし、従来

文化が発展していくことが期待されていきます。長年のオール京都での要望活動が実り決定されて七年を経て実現した文化庁の京都への移転ですが、初期の目的を達成できるよう期待したいと思います。

最後に、文化庁が京都に全面的に移転した年として、今年度は文化や観光をテーマとした講演会なども企画できたらと考えております。引き続き、理事の皆様と相談・協議しながら会の運営を進めていきたいと考えておりますので、会員の皆様にお寄せいただければ大変有り難く思います。

## 第一回講演会

令和四年五月二十八日(土)

# 「疫病と祇園祭」

祇園祭山鉾連合会

理事長 木村 幾次郎氏



木村幾次郎氏は、祇園祭に昭和三十一年八歳から長刀鉾離子方・鉦方として参加して以来六十五年、鉦方をへて太鼓方で

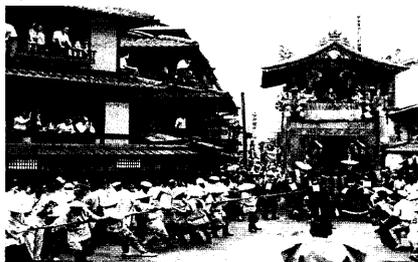
現在にいたっています。令和元年の祇園祭終了後の十一月に選挙にて祇園祭山鉾連合会理事長就任されました。理事長就任後は急激なコロナ感染症状況の変化をにらみながら調整と連絡の連続と伺いました。本会では昨年一月に講演会をお願いしていましたが延期となりました。今回「疫

病と祇園祭」と題してご講演をしていただきました。

### 〈自己紹介〉

皆さんこんにちは。この二年間、祇園祭の山鉾巡行は実施できませんでしたが、我々は神事を行ってまいりました。今日は百九十六年ぶりに巡行参加する鷹山についてもお話しします。この写真(長刀鉾)を見ながら自己紹介をします。左側の一番端から二人目の子どもが私です。子ども

私が祇園祭りの鉦方として入ったのは昭和三十一年です。この年の十七日から巡行コースが寺町を北行して御池通り西進するコースに変更され、御池通りに有料観覧席が設置され多くの方に観てもらうためのコースに変わりました。それまでは松原通りを巡行して寺町松原の細いところでの辻回しは大変でした。寺町通りを北上して三嶋亭やかに屋さん付近での辻回しは大変で御池通りに出るのには至難の業でした。



### 〈祇園祭は延期(明治以降)の歴史〉

稚児のしめ縄切は、観光のための行事として昭和三十一年から始ま

り、以前は寺町通り錦と四条の間にしめ縄が張ってありました。そこでお稚児さんがしめ縄切りをしていたと誘いがありました。が、御旅所から東を向いて「遥拝」させてもらうことにしました。前祭りは「遥拝」、後祭りは「拝礼」をしました。

昔の記録をさかのぼると、応仁の乱の際に室町幕府が中断された神輿渡御の際に神輿の代わりたに神の枝をもつて神幸するよう命じたとの文書が残っています。依り代とした御旅所に神様にお移りするとあり、その際神輿渡御に伴う清めの神事をされた

と伺い、私たちは巡行を中止しましたけれど神様がおいでになる神事はさしていただこうとなりました。私が神の枝に山鉾の名前を書いて各山鉾町に配り、十七日に各山鉾代表一名が依り代を持っておいでいただくことにしました。順番は「くじとり式」をせずに前年度の順番で四條烏丸から出発し四條寺町にある御旅所まで歩いてもらいました。後祭りは昭和四十一年からは御池通りを巡行するようになったのですが、もともとは三条烏丸を出発していま

第一回目の巡行です。昭和三十七年は阪急電鉄の地下鉄工事が四條大宮と河原町間延伸工事があり、オーブンカット工事のため鉄板の上で鉦の舵を取るのには難しかったので、山鉾巡行は中止となりました。ほとんど町の町内が山鉾を建て、神輿渡御は行われたことを覚えています。

### 〈令和元年(二〇二〇)理事長就任〉

令和二年(二〇二二)の三月頃までは山鉾巡行をやるうといった雰囲気でしたが、四月に葵祭が中止となり、二〇二〇年東京オリンピックの延期は、祭り担当者にはショックな出来事でした。五十一年ぶりに山鉾巡行を中止すること分かったことがあります。八坂神社の宮司さんから神輿をどうされますかとお尋ねがあ

### 〈文化・技術の継承〉

昨年の話ですが令和二年(二〇二二)は国の指針により大きなイベントは中止と示されました。オリンピックの延期、高校野球が中止される中で祇園祭の山鉾の巡行も中止されました。祭りが終わってからは、来年はどうするか悩ましました。二年続けての中止となると皆さん方に納得していただけるか。疫病退散の祭りが疫病で中止となるのはとんでもない。疫病退散の祭りで疫病が蔓延したと大変です。悩んだ。お正月頃は蔓延防止もなく蔓延防止や緊急事態宣言が発出されるなど状況が変わってききました。四月には山鉾巡行

はできないと判断しましたが、文化の継承をどうしていくか。山鉦を建てる人、縄を張る人、藁を作る人、材料を準備する人など人の問題も出てきます。悩んだ末、各保存会でアンケートを取ってもらったりしたが、やはり青山の雑踏は避けなければならぬので山鉦巡行は難しいことになりました。文化の継承として山鉦建てはやりたいという保存会がありました。二年間はつておくとして張や鉦建て、鉦を動かす車方の技術の伝承は難しくなるので山鉦を建ててほしいという町内があり、鉦を建てるのと建てない町内が半半でした。その後鉦建てした町内の方から直接お話を聞きすると作事方(大工)からは今年鉦を建てさせてもらってよかった。一年空いただけでも鉦建てに、もたもたして同じ時間内で建てられなかった。技術の伝承として点でも大切でした。財団法人として文化財を保護する観点からも鉦を建ててなかつた町内も一度は鉦の蔵出しをしてほしいとお願ひしました。令和三年(二〇二二)は「くじとり式」を行ったが、くじをひねるにも人が変わると所作がなかなかうまくできなかった。所作の伝統を受け継いでいくことの大切さを感じました。

令和三年(二〇二二)は青山をしない。山鉦を建てるがどうかを保存会ごとに判断してもらいました。「このはな提灯」を下げるのは初めからしていません。この写真は、鶏鉦です。菊水鉦は建てませんでした。月鉦は鉦を建て、提灯も下げ人形のお稚児さんを作りました。このような様子は今年だけだと思ひ写真を撮りました。昨年長刀鉦建ての作業中に金属の飾りが落下し、幸いにもけが人はなかつたが二年間空いていると老朽化に気づかなかつた。二百年近く続いているので劣化も激しいので巡行の途中で落下しては大変で

す。毎年点検するのでも我々の大事な仕事だと感じました。祇園祭りはみんなで担いで終わりではなく、山鉦を建て、巡行をする、鉦を取めるところまでが大変で、そうしたことが文化・技術の継承だと思ひています。昔の高い藁も滋賀県で昨年から準備してもらっています。すべてが一年かけて用意をしているお祭りなので、今年四月に祇園祭をやりますというところで皆さんに用意をしてくださいと申しました。これからも百年、二百年と文化の継承をしていくことが大事なことでと確信しました。

今年熱中症の心配  
今年にはコロナを心配しているのではなく、熱中症を心配しています。マスクをつけての作業や、鉦を引くなどの際に熱中症にならないよう京都府コロナ対策室と相談しながら準備してきています。安心・安全で怪我なく無事に祇園祭が終わるよう十分に備えていくことが大切だと思ひています。地域の方のご協力により、三条通りで「くじ改め」をさせていただきました。その時は門川市長も地域の方なので参加されています。いろいろとお世話になっております。巡行は十七日と二十四日に決まっております。今年土曜日が青山で巡行が日曜日となり最高の曜日回りととなっております。私たち連合会は安心・安全を考えながら祇園祭を行っておりますので、皆様の「ご協力・応援をしていただけたら」と思ひます。各山鉦は各町内独自で決めています。財団法人ですので地蔵盆と同じく連合会が調整するのは大変難しく、たまたま十七日に一緒に巡行しましょうということですが。

新町間に鉦が立ちます。鷹山は応仁の乱のときからありました。江戸時代に入つて、天明八年(一七八八)天明の大火で焼けてしまつており、天明八年は昇山、寛政十年(一七九八)に曳山に戻っています。享和三年(一八〇三)に曳山に大屋根ができたが文政九年(一八二六)の巡行で大雨(台風)にあつて懸装品が汚損し、修復できなくて翌年から巡行には参加できなかったと書いてあります。元治元年(一八六四)の禁門の変(蛤御門の変)で大半の部材が焼失し、現在は人形の首が三本と腕六本が文化財として残っているだけです。宝暦七年(一七五七)に書かれた絵の中に鷹山が描かれています。(祇園御霊会細記山鉦巡行記図)

その年は、大船鉦、岩戸山、観音山も曳山として巡行しています。同じように仮設の屋根や人形を立てているのが幕末の横山山山の祇園祭祭礼図鑑に鷹山が曳山として存在していることがわかります。この絵をもとに鷹山の復元がなされています。この前の新聞に丹波の工務店の敷地内で鉦が行われたと書いてありました。何年もかかって漆を塗つたり、金物をつけたりと町内で行つていけませんので連合会としても協力していきたいと思ひます。数年前の大船鉦も復活して巡行に参加されていますが、毎年柱に漆を塗つたり、屋根の彩色や先についている龍に箔を張つたりと昔の姿に戻そうと努力されています。連合会として協力しています。鷹山が復活したことで江戸時代後期(蛤御門の変)の記録に残っている祇園祭の姿がすべて整い復元できることになりました。

平成二十六年に大船鉦の復活を機に前祭りと後祭りの巡行となりました。三十三基が一気に巡行すること長い時間がかかり難しと警察署からも言われ、炎天下の中で観覧されている人も耐えられないのではないかと聞いたことから前祭りと後祭りとなりました。

子ども頃の後祭りは、三条通りの方に北観音山がありその南に南観音山がありました。その他に橋弁慶山、鯉山、浄妙山、黒王山、役行者山、鈴鹿山、八幡山がありました。山鉦の数が前祭りより少なく寂しい祭りといった感覚なんです。応仁の乱以降は大船鉦や鷹山鉦が焼失しています。本来なら観音山は隔年で一基が出てくじを取っていました。橋弁慶山は後祭り復活で一番で巡行しています。応仁の乱以前からくじ取らずの一番と記録に残っています。昇山では唯一のくじ取らずの山です。橋弁慶山は牛若丸と弁慶が五条大橋の上で戦う姿を現しています。夕方から山鉦に駒形提灯が灯され、囃子方が奏でられます。また青山(後祭)期間中は浴衣姿の子ども達が行くべ歌(童歌)を唄いながらちまき(粽)

なども販売されます。見物人は浴衣でなく着物ですが、五種類の鉦があります。鉦、曳山、昇山、船鉦、傘鉦、があります。最後に蟻螂山ですが、「かまの斧を持つて陸車の轍を禦がんと欲す」という中国の故事に由来します。永和二年(一三七六)に四名家の御所車にその蟻螂を載せて巡行したのが始まりといわれています。屋根の上に蟻螂が載っています。

観光鉦だけが人形からお稚児さんに変わっています。お稚児さんのお化粧の仕方を知る人や散髪できる理髪店の方が少なくなつてきています。草鞋の履き方など、普通のことができなくなつてきています。二百年間続いているため木部が痛んできています。特に車輪材の檜の木が手に入りにくくなつてきています。

よもやま話となりましたが、我々は文化・技術の伝承に取り組んでいます。

延期となつておりましたが、講演会を開催することができました。近畿地方にも寒気が南下し、JR西日本旅客鉄道等が遅延するのではないかと心配して

第二回講演会

「本市におけるGIGAスクールの取組について」  
「市立学校園における「教育のICT化」の現状」

令和五年二月二十八日(土)

京都市教育委員会学校指導課総合教育センター指導室  
主任指導主事 前田 穰 氏



おりましたが、講演会当日は好天に恵まれ講演会を開催することができました。

一、GIGAスクールとは  
Global and Innovation Gateway for All(すべての子どもに個別最適化され、グローバルで創造性を育

Global and Innovation Gateway for All(すべての子どもに個別最適化され、グローバルで創造性を育

む学びを実現化する構想) スクール構想です。

GIGAスクール構想とは、一人一台の学習用コンピュータ(GIGA端末)と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで子ども達それぞれに適した学びを提供し、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する取組のことです。

京都市では、令和二年度中に小・中・総合支援学校に全児童生徒・教員分のGIGA端末などのネットワークが整備されるとともに一体型Webカメラが整備されるなど、学習スタイルが大きく変わりました。GIGA端末については、原則、入学から卒業まで同じものを使用し、卒業時に返却することになっていきます。令和三年度は、これまでの教育実践の蓄積にICTをフル活用し、教科の学びを深め、つなぎ、探求する授業実践(主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善)が求められました。前田稔主任指導主事から令和三年度の実践事例をもとに具体的な事例をもとに紹介していただきました。

〈小学校体育科の事例〉

小学校の体育の跳び箱の授業では、「知識の習得」として一人一台になると開脚飛びや抱え込み飛び技に行い方を見たい動きを必要に応じて繰り返し視聴することで、個別最適化された学びが実現していただきました。

知識の習得では、一人一台になることで、技の行いについて、見たい動きが必要に応じて繰り返し視聴することが出来ます。そのことで個別最適化された学びが実現していただきます。

技能の習得では、毎時間の動きを撮影することで前々時、前時、本時の動きを確認し、比較することで自

己変容を確認することが出来ます。

〈小学校一年生算数科の「かたちづくり」の授業例〉

色板を並べたり、棒を並べたりして、自分で考えた好きな形を作る場面では、今までの先生は教室を回って一つ作成したら先生に見せてOKをもらった次を作っていました。に對して子どもは、いろいろな形をどんどん作りたいし、先生にも見ってもらいたいが、先生がなかなか回ってきたくないから、次を作りたいのに作れない。じっくり考えたいが、先生のアドバイスが欲しいな、でも聞きたいけどもみんなの作品を見るのに大変そうなので先生には聞けない。

一人一台の端末を活用することで、先生の指示は出来たら写真に撮ってどんどん作りましょう。写真は後でまとめて提出してねと変わります。撮影してどんどん作成したことで、たくさん作ったねと褒めてもらったよ。先生のアドバイスをもらって大きな形を作ることが出来たよ。このような子ども達の姿を個別最適化された学びの実現と考えています。協働的な学びについて、これまでのICT環境では(教師主導型)、教師対子ども一対一対応からGIGA端末(児童生徒主体)の活用で子ども同士や異学年・他府県の子どもの地域の方々や専門家の方と交流が可能となります。主体的・対話的で深い学びにつながっていきます。

GIGA端末の導入で授業はどう変わるか。これまでのICT環境では、教師が資料を用意していた教師主導の授業から、子ども生徒が資料を選択する児童生徒主体の授業に変わり、個別最適化された学びへと変わります。ペア・グループ内交流から協働

的な学びへと変わっていきます。「個別最適化された学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が図れます。

二、本市の取組

(教師主導から児童生徒主体へ)

〈令和三年度の取組〉

GIGA端末の活用を活発にするためには、簡単な操作で大きな効果を目指しました。まず、使ってみる。「eams・ロイロノート」を活用し、カードの書き込みやお絵かき、カメラ撮影などから始め、共有してみる。「eams・ロイロノート」の発表や全体共有を図る。

〈小学校国語科一年生「しらせたいな、見せたいな」の単元の事例〉

今までは絵を描いて、見つけたことを書き込んでいたために、時間がかかるうえ気づきが伝わりにくかったが、写真を取り込み、直接見つけたことを書き込むようにすることで、様々な角度から写真を繰り返し見ることができ、新たな気づきが見られます。「効率UP」「効果UP」につながっていきます。

〈中学校音楽科一年生の授業「箏曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう」の単元の事例〉

今までは、全体に動画を流したり、先生の範奏を見たりするだけで、見たい部分を各自が繰り返し確認することは出来ませんでした。が、範奏の動画をGIGA端末に予め準備し、全員に共有することで奏法の理解と習得が促せる上に、各自で複雑な奏法をスローで再生して何度も確かめることができ、技能の定着が図れる。深い学びにつながるためには、先ず、使ってみる「eams・ロイロノ

トを活用し、カードの書き込みやお絵かき、カメラ撮影などから始め、共有してみる。「eams・ロイロノート」の発表や全体共有を図ることから始めます。深い学びへは、回答の比較・整理・分類や複数の資料を関連付けます。子ども達にさせていきます。(先生は支持するだけ)思考ツールの有効活用や単元全体や単元のつながりを意識させます。

全市でGIGAスクールの共有や「eams」で実践共有をしていきます。各校から実践事例を投稿してもらい教科ごと学年ごとに整理してあります。現在、約五百例の実践事例を共有しています。GIGA支援コンテンツメニューとして、GIGA端末では、HOW・TO動画や実践事例、研究協力校のインタビュー、研修動画を百例以上の実践事例を提供してあります。基本的な知識・技能の習得に向けたロードマップを改定しています。

〈令和四年度は、四月より充実期へ〉

- ① 児童生徒が主体的に端末を利用できるように環境を整え、学習計画を設定しています。
- ② デジタルドリル(デジタル教材)や授業支援ソフトの活用による効果的な知識の定着や協働学習の充実を図っていきます。
- ③ デジタル教科書の活用や各種学習データの収集・分析・可視化による授業改善を目指していきます。
- ④ オンラインを活用した遠隔学習(校内・他校交流)や体験活動の更なる推進を図っていきます。
- ⑤ 小一から中三まで、全学年で家庭に持ち帰ることが可能とします。
- ⑥ 学習場面の他、委員活動などの学校生活の様子などの他、様々な場面で各ソフトをツールとして主体

的に有効活用を図ります。

〈ICT活用の強み及び効果〉

(「二〇二〇年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」最終まとめより)

- ① 多様で大量の情報収集、整理、分析、まとめ、表現することができ、カスタマズが容易
  - ② 時間や空間を問わずに、音声・画像・データ等を蓄積、送受信でき、時間的・空間的制約を超えること
  - ③ 距離にかかわらず相互に情報発信・受診のやり取りができるという双方向性
- ※ここで、質問タイム。質問も声があり、関心の深さを感じました。後半は、情報モラルについて、お話をさせていただきました。

三、情報モラルについて

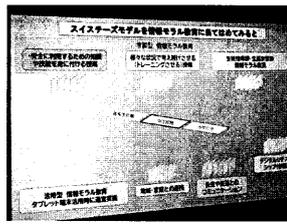
〈情報技術の危険性〉

- ① 情報がネットワークを介して瞬時に世界中に伝達され、予想しない影響を与えてしまいます。
- ② 対面のコミュニケーションでは考えられないような誤解を生じるなどそのためには、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方や態度の育成を図ることが大切です。これまでも、多くの問題が生じています。

〈情報社会の倫理〉として、著作権の侵害やSNSに画面アップなど(法の理解と順守)として、SNSで悪口の投稿やコミュニケーショントラブルなど(健康と安全)として、長時間の利用(ゲームや動画)など一人一台の端末を家庭に持ち帰らすことで、学校内の問題へと増大・顕著化することが懸念されます。年齢階層別ソーシャルネットワー

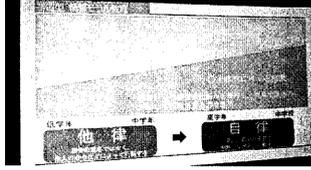
### 〈スイスチーズモデルによる新型コロナウイルス感染予防〉

「一つひとつの予防策は孔の空いたチーズのようなもので、完璧ではなく、ワクチンであつても百パーセントの予防効果があるわけでもない。これらの壁を組み合わせると何枚も立てて、最終的に高い予防効果を発揮します。組み合わせで、一つ一つにこだわりすぎないで、孔を小さくすることも大事だが、重ねることの重要性を意識すべきです。スイスチーズモデルを情報教育モデル教育に当てはめてみると学習型情報モラル教育が以下の図のようになります。

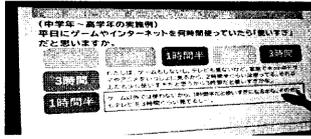


「知識」は必要なのか？知識の有無が行動に大きく影響を及ぼすものとして、「不適切情報の閲覧」、「著作権の侵害」があります。知識の有無があまり行動に影響を及ぼさないのは、「コミュニケーショントラブル」、「長時間利用」が考えられます。

### 〈学習型情報モラル教育について〉



〈学習型 情報モラル教育 ルールや考えの曖昧さから議論〉



この間で、知識・技能・思考力・判断力・表現力を身に付け、大半はここでブロックできます。さらに、先生や友達とのコミュニケーション（日々の学級経営・ホームルーム経営も含む）をすることの中で学びます。さらに、地域・家庭との連携が重要になってきます。

学習型情報モラル教育と活用型情報モラルと組み合わせることで情報モラルの教育の充実と情報活用能力（情報モラル）の育成に努めています。ご清聴ありがとうございます。

## 見学研修会 「天才アーティスト展」の鑑賞会

令和四年十二月三日（土）



見学研修会は、四年ぶりの開催となりました。訪問先は北区ふれあい共生館（元楽只小学校）内で第十回天才アーティスト展「オープン・スタジオ2022」の開催に合わせて訪問しました。特定非営利活動法人障害者芸術推進機構の副理事長の重光豊氏にスタジオ内の案内と作品紹介や特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構の活動についてお話を伺いました。

### 〈設立の経緯について〉

昭和五十三年、京都市立養護学校、小・中学校特殊学級の児童生徒の合同作品展「小さな巨匠展」が開催され、今年度で第四十五回を迎えました。

平成七年には、京都の障害者施設の利用者、障害のある市民当の作品の展示会として『京都とっておきの芸術祭』が開催され、いずれも京都市美術館（別館）を会場に今日まで継続しております。

京都においては、これらを嚆矢として障害のある児童生徒・市民の美

術活動の作品を一堂に展示する場を早くから設けられていましたが、それぞれ一年一回の開催であり、相互の繋がりが連携もなく、興味関心や才能のある人を組織的に養成したり、場の保障をしたりする仕組みがなかったといえます。しかし、近年市内の障害者福祉施設において余暇活動等の一環として、美術「制作活動」に注力するところも少しずつ増えています。

今日、世界的に専門家や関係者の間で、また少数の市民の間でも、障碍のある人の表現能力、特に美術的な内容について注目されるようになってきました。そして作品としての価値やクリエイターとしての能力についても評価が高まっており、日本でも各地で先進的な取り組みが進んでいます。京都においても、いくつかの福祉施設などで取組が進められていますが、まだまだ少数で、結果として多くの才能が埋もれていきます。また、養護学校や総合支援学校卒業後、制作の場がなく、断念せざるを得ない状況にありました。

また、京都市立の総合支援学校においては、「コミュニケーションスキル」の事業の中で、平成十八年より学校運営委員会やPTAが主体となつて、障碍のある児童の放課後活動として「制作活動」を地域の小学校などで開始しました。さらに同二十年には文部科学省の委託研究を受けて、教育課程に「外部の美術の専門家を活用した制作活動」の時間

が設けられました。その結果、これらの取り組みの中で、わずかな数年にして質の高い作品が生み出されるようになり、児童生徒の隠されていた能力がどんどん開花していく状況が生まれています。

また、これにより、保護者、教員が障碍のある児童生徒の美術表現能力を見直すきっかけとなりました。さらに、美術の専門家も障碍のある人の表現能力や作品の価値に気づききっかけともなり、その知られざる能力に瞠目するようになりました。そして、平成二十一年三月～五月と同二十三年二月～三月に、「作品展」を京都国際マンガミュージアムにおいて開催し、大きな反響を呼びました。



こうした取組を通じて、保護者、教育、福祉関係者や美術の専門家が、障碍のある人の表現能力や作品の価値に気づくこととなり、その知られざる能力に瞠目するようになりました。そして、学齢期より生涯にわたって、継続して制作活動のできる場の確保や作品の芸術的評価やデザイン化活用等の支援と、そのために必要な様々な事業や取組を推進・研究することを目的としてNPO法人の設立準備を進め、同二十三

年八月に設立・認可に至りました。  
(ホームページより)

### NPO法人の取組 〈事業内容と実績〉

1. 制作会事業二〇一一年十一月から開始発足当時の登録作家は十五名からスタートしました。二〇二一年(令和三年)十一月現在で作家は四十二名です。退会者は七名でした。

2. 作品展示事業二〇一二年四月開始しました。現在まで展覧会は十九回開催しました。延べ二百五十日、来場者数は一万六千五百人

3. 作品収蔵事業二〇一二年九月月から開始しました。約四千点収蔵しています。

4. 広報事業二〇一三年四月から開始しています。

5. 作品アーカイブ保存事業二〇一五年九月から開始しています。現在千八百三十九点撮影し保存しています。

6. アーカイブ活用事業二〇一六年五月より開始しています。  
①自前製品として、ポストカード五十七点、クリアファイル三十点、Tシャツ、京扇子、手描き団扇など  
②コラボ製品として、風呂敷は、むす美、山田繊維(株)と提携しています。  
スポンジクロス、無償配布団扇は京都職人プロジェクト、和ローソクは(有)中村ローソクと提携しています。

③高精細複製画の販売及びリリースとしています。  
④アーカイブ画像提供として企業等の広報誌の広告、製品等のデザイン

7. 原画販売。レンタル事業として、二〇二〇年三月から国内や外国にも行っています。研究事業は現在、未着手です。

### 〈展示作品の紹介〉

展示会場にある作品一点一点について丁寧に解説していただきます。(一部を紹介)

現在、四十一名の作家さんが登録しており、四十一通りの作風とスタイルがあり独自の作品があります。制作の手法は、本人さんが編み出した手法であり、ほとんどの方は美術教育を受けているわけではなく、独学で学んで会得されています。そこ

のところが天才的といわれるわけです。ほとんどの方は下絵や構想図を描かないでいきなり描かれます。作風としては具象的な動物、人物、花、風景や建物を描かれるタイプの方

と、自分の頭の中にあるイメージを抽象的に描く画風の方などがおられます。その他に、この方のように白いセロテープを指先や腕に巻き付けて、色を付けて巻き取り丹念に張り付けていきます。巻き取る行為が楽しくて、この時は鼻歌交じりで制作されています。一つ一つの塊が集まり大きくなっていくと絶妙な味のあ

る作品とになっていきます。  
・この方の作品を見られたら分ると思います。タッチが共通化されていてデザイン化されています。  
・このフィギアアの作品は、欧米の方に人気があります。ヨーロッパの、アジア的な雰囲気なところが

人気のようです。小学校の頃は、閻魔大王を絵として描いていました。が、中学生になりとまずと立体的に描けるようになってきました。

・この方は、以前はペンで作品を描いておりましたが、三年前から水玉が立体的になりました。作風が変わって来ました。

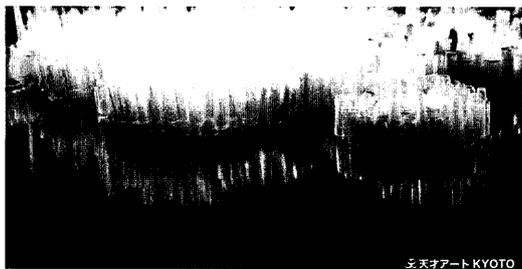
・この方は、人気のある作家さんです。大坂のギャラリーで個展を開く等、作品も売れています。

・この方は、滝廉太郎や宮城道雄を描いています。なぜかといいますが学校の音楽室や理科室などの横に偉人の写真が掲示されています。学校時代にそれを見て気に入っていたので描いています。

・この方の初期の作品は、怪物が好きで模様で構成されてきました。二〇一九年頃からマウスを使ってきた作品はマウスサウルス、マウスサギタリユウス、マウスレオ等命名しています。よく見て頂いたらわかると思います

・この方は、マウスが全部マウスで描かれています。先に縁取りしたものではなく、マウスで一匹一匹描いた結果

・この方は、以前はペンで作品を描いておりましたが、三年前から水玉が立体的になりました。作風が変わって来ました。



**一般社団法人 現代教育研究協会**

◆事務局住所  
〒605-0981 京都市東山区本町4丁目131番地  
クリスタルハイツ1F  
団体ホームページ <http://www.gendaikyoiku.org>

◆入会のお問い合わせ  
メールアドレス [Kyotogendaikyoiku@gmail.com](mailto:Kyotogendaikyoiku@gmail.com)  
(メールには、お名前、フリガナ、メールアドレス、電話番号を明記してください。)

こうした作品が出来上がっています。鉛筆やペンで下書きしたものはなく「しまった」がないのです。消しゴムで消すことが出来ません。

・この方の作品は、高等数学の数式です。円周率を三十から四十桁まで覚えてあります。ご両親は、以前は何を書いているのかわからなく困惑していました。京都大学の理学部の方にボランティアとして来てもらったとき、見られて実在しないことが分かりました。そのことを聞かれた親御さんは、子どもの見方が大きく変わってきました。これがアートかと感心されました。

こんなものがアートか、作品なのかと知ってもらうことが大切です。このことが新たな人材の発掘にもつながります。

ながっていきます。  
作家さんお一人一人の手柄や障碍の特性を活かして、能力を引き出し支援し、オリジナル作品を創作されていく過程など、丁寧に愛情あふれる解説をしていただき誠にありがとうございました。

### 編集後記

現代教育研究協会は、会長の挨拶の中にありますように、梶村健二前会長から在田正秀会長に引き継がれ、新たな体制のもとスタートとなりました。

今年度の活動も引き続きコロナの感染拡大が繰り返す状況の中にあたり、講演会や研修会の実施が危ぶまれた年度でした。五月に第一回講演会を実施することが出来ましたが、その後もコロナ感染拡大が起り、講演会や研修会開催の日程調整が続きました。

十二月に「天才アート」展(オーブン・スタジオ2022)の開催期間中にお伺いすることができました。さらに、今年の一月末に第二回講演会を開催することができました。

令和五年度の活動が新型コロナ感染拡大以前のように開催でき、会員の皆様のご協力のもと充実・発展していけるよう願っています。よろしくお願いたします。

